

学校教育 目標	夢のために ともに学び ともにつながり ともに伸びる 児童の育成
育成を目指す 資質・能力	○基礎・基本の定着 ○表現力の育成 ○継続して学ぶ力の育成 ○書く力の育成

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○各教科とも「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」が弱い。自分の考えを筋道を立てて表現することに課題がある。 ○問いや資料を読み取ることに課題がある。 ○複数の情報を整理し、取捨選択したり結び付けて考えたりする力が弱い。 ○国語では、叙述を基に文章の内容をとらえたり登場人物の気持ちの変化を想像したりする力が弱い。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○学習活動の中で人の話を最後まで聞くこと、さらに、自分の考えが伝わるように工夫して書く・話す等表現することに苦手意識をもつ児童が多い。 ○家庭学習の習慣が定着していない児童が学力面で困っている状況にある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○自分の考えを書く記述式の問題の無回答率は少なくなった。表現する力の育成を継続して行ってきたことで、少人数の中で自分の考えを伝え合うことはできるようになってきた。全体場で伝えることについては、苦手意識があり、抵抗を感じている児童が多い。 ○5分準備・1分間前着席・休めをして待つことで、落ち着いて授業に取り組むことができるようになってきた。学習規律が整ってきている。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○めあてと課題、まとめ、振り返りを位置付けた1時間完結型の授業を実践する。 ○一人一人が考えをもつ場を保障し、考えを整理するために思考ツール等を活用する。 ○交流の仕方を工夫した対話的活動の場面設定をする。 ○検証授業や互見授業を行い、授業力の向上を図る。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○授業の中で継続的にミニテストや練習問題を行う。 ○基礎・基本の定着を図るため、朝の会や家庭学習において補充学習を行う。 ○ノート指導や日記等の書く活動の指導を通して、自分の考えなどを書く経験を積み重ねる。 ○質と内容を考えた家庭学習に保護者と協力して取り組む。	

学力に関する達成指標

○単元末テストで低学力層(正答率60%未満)の児童の割合10%以内 ・補充学習において基礎・基本となる漢字や言葉のプリント等を担任や学習部が準備し継続して取り組ませることにより、国語の単元末テスト「知識・技能」の科目においての平均点を80点以上にする。 ・授業の中でICT機器を活用したり、思考ツールやワークシートなどを活用したりすることにより、自分の考えを周りに伝えられる児童の割合を80%以上にする。
--

